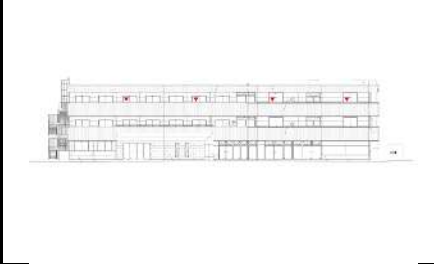


# CASBEE®-建築(新築)

## 評価結果

使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、CASBEE-建五類2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)春日部市南中曽根PJ	階数	地上3F
建設地	埼玉県春日部市南中曽根字沖田	構造	S造
用途地域	第一種中高層住居専用地域	平均居住人員	80人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年9月 予定	評価の実施日	2019年3月25日
敷地面積	1,436㎡	作成者	大和ハウス工業(株)埼玉支社
建築面積	761㎡	確認日	2019年3月28日
延床面積	2,032㎡	確認者	大和ハウス工業(株)埼玉支社



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

環境品質 Q

環境負荷 L

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レダ-チャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Qのスコア = 2.8**

Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
<p>Q1のスコア = 2.8</p>	<p>Q2のスコア = 2.7</p>	<p>Q3のスコア = 3.0</p>

LR 環境負荷低減性 **LRのスコア = 3.2**

LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
<p>LR1のスコア = 3.4</p>	<p>LR2のスコア = 2.8</p>	<p>LR3のスコア = 3.2</p>

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 室内環境、エネルギー、資源・マテリアル、敷地外環境を基本に中程度の配慮がなされた設計である。	<b>その他</b> 特になし	
<b>Q1 室内環境</b> 個室部分の昼光率が1.25%以上確保、自然換気性能共用部1/15以上、個室1/10以上確保し室内環境に配慮した計画がなされている。	<b>Q2 サービス性能</b> サービス性能において中程度の計画がなされている。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 室外環境(敷地内)において中程度の取組がなされている。
<b>LR1 エネルギー</b> 建物外皮の熱負荷抑制BPIの値が0.8以下でありエネルギー使用の合理化の配慮がなされている	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 資源・マテリアルにおいて、部材の再利用可能性の取組がなされた計画である	<b>LR3 敷地外環境</b> 敷地外環境において、CO <sub>2</sub> 排出率が一般的な建物と同等以上である。光害対策が「サインと広告物照明の扱い」配慮事項をいずれも過半以上を満たしている

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版、CAS**  
**(仮称)春日部市南中曽根PJ**

欄に数値またはコメントを記入

使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版、C  
 評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

スコアシート 実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>						<b>2.8</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>		-	<b>2.8</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>
1.1 室内騒音レベル		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.40	
1.2 遮音		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.40	
1 開口部遮音性能		3.0	0.40	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能		3.0	0.60	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音		<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	0.20	
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.2</b>	0.35	<b>2.6</b>	1.00	<b>2.3</b>
2.1 室温制御		<b>2.2</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50	
1 室温		3.0	0.38	3.0	0.57	
2 外皮性能		3.0	0.25	3.0	0.43	
3 ソーン別制御性		1.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御		<b>1.0</b>	0.20	<b>1.0</b>	0.20	
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	0.30	
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.0</b>	0.25	<b>3.3</b>	1.00	<b>3.1</b>
3.1 昼光利用		<b>3.0</b>	0.30	<b>4.2</b>	0.30	
1 昼光率	1.25%以上(個室)	3.0	0.60	5.0	0.60	
2 方位別開口		-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策		<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.30	
1 昼光制御		3.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度		<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	0.15	
3.4 照明制御		<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	0.25	
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.0</b>	0.25	<b>3.2</b>	1.00	<b>3.1</b>
4.1 発生源対策		<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.63	
1 化学汚染物質		3.0	1.00	3.0	1.00	
4.2 換気		<b>3.0</b>	0.30	<b>3.6</b>	0.38	
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能	個室1/10以上	-	-	5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理		<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	-	-	-	
2 喫煙の制御		3.0	1.00	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>		-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.7</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.60	
1 広さ・収納性		3.0	-	3.0	1.00	
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	3.0	-	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.40	
1 広さ感・景観		3.0	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		3.0	-	-	-	
3 内装計画		3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理		<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>2.9</b>	0.30	-	-	<b>2.9</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		<b>2.8</b>	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-	
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>2.4</b>	0.30	<b>2.0</b>	1.00	<b>2.2</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>1.8</b>	0.43	<b>1.0</b>	0.50	
1 階高のゆとり			1.0	0.60	1.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			3.0	0.40	1.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			-	-	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.57	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.0</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.2</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.4</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		0.8以下	<b>5.0</b>	0.20	-	-	<b>5.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEIm] = 0.80	<b>3.0</b>	0.50	-	-	<b>3.0</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			<b>3.0</b>	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.8</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
1.1 節水			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>2.8</b>	0.60	-	-	<b>2.8</b>
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		仕上げと躯体が容易に分別可能	5.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.0</b>	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		123.64/148.10=83%	<b>3.6</b>	0.33	-	-	<b>3.6</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
2.1 大気汚染防止			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	0.33	-	-	
2 振動			3.0	0.33	-	-	
3 悪臭			3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			<b>3.0</b>	-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>4.4</b>	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		光害対策がドライと広告物照明の扱いの配慮事項の過半を満足	5.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

# CASBEE埼玉県

# 重点項目シート

使用評価ソフトウェアバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

## 1 建物概要

建物名称	(仮称)春日部市南中曽根PJ	BEE	1.0	BEEランク
------	----------------	-----	-----	--------

## 2 重点項目の評価

ライフサイクルCO <sub>2</sub> の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア		
3.6	+	3.0	=	6.6 
重点項目の各スコアの合計点				
がんばろう 6.0未満 	良い 6.0以上 	非常によい 6.8以上 	すばらしい 8.0以上 	

## 3 重点項目についての環境配慮概要

<b>(1) ライフサイクルCO<sub>2</sub>の削減</b>		スコア平均	3.6
< CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア >			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.6
< 配慮した内容を記述 >			
<b>(2) 緑の保全・創出</b>		スコア平均	3.0
< CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア >			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	3.0
Q3 室外環境(敷地内)	3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2.2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
< 配慮した内容を記述 >			

: 入力欄